【感染症非専門医・薬剤師のための感染症コンサルテーション】 訂正のお知らせ

2016年9月8日

ご購入いただきました【感染症非専門医・薬剤師のための感染症コンサルテーション】(2014年6月20日発行第1刷、第2刷、第3刷)におきまして、以下の誤りがございました。 ここに訂正させていただきますとともに、深くお詫び申し上げます。

正誤表

頁数	訂正箇所	誤	正
20	表4 タゾバクタム・ピペラシリン (ゾシン)の1回投与量	(1回) <u>4g</u>	(1回) 4.5g

2016年7月7日

ご購入いただきました【感染症非専門医・薬剤師のための感染症コンサルテーション】(2014年6月20日発行第1刷、第2刷、第3刷)におきまして、以下の誤りがございました。 ここに訂正させていただきますとともに、深くお詫び申し上げます。

正誤表

頁数	訂正箇所	誤	E
20	表5 セフェピム(マキシピーム)の 1回投与量と投与間隔	(1回) <mark>2g <u>6時間</u>ごと静注</mark>	(1回) <mark>1g 8時間</mark> ごと静注
151	表4 セフェピム(マキシピーム)の 1回投与量	(1回) <mark>2g</mark> 8時間ごと静注	(1回)1g 8時間ごと静注

2014年7月24日

ご購入いただきました【感染症非専門医・薬剤師のための感染症コンサルテーション】(2014年6月20日発行第1刷)におきまして、以下の誤りがございました。

ここに訂正させていただきますとともに、深くお詫び申し上げます。

P75 表4

「壊死性筋膜炎で, 起因菌判明後 (感受性結果に応じて狭域の抗菌薬に変更する) 」

長4 壊死性筋膜炎で、起因菌判明後(感受性結果	限に応じて狭域の抗	(菌薬に変更する)
菜剤名	投与量(1回)	投与間隔
A群β溶連面の場合(G群、C群含む) ベニシリンG(ペニシリンGカリウム®)	1.200万単位	12時間持続静注 として1日2回
または アンピシリン (ピクシリン [®])	2g	4時間ごと静注
クリンダマイシン (ダラシン [®] S)	600mg	8時間ごと静注
ピブリオ・バルニフィカス (海水との接触) の場合 セフタジジム (モダシン®)	1g	6時間ごと静注
▼ ミノサイクリン (ミノマイシン [®])	100mg	12時間ごと静注
Enterocaccus faeciumの場合はバンコマイシン シブロフロキサ ンン(シブロキサン) 正	300mg	12時間ごと静注
表4 壊死性筋膜炎で、起因菌判明後(感受性結	果に応じて狭域の	抗菌薬に変更する
表4 壊死性筋膜炎で、起因菌判明後(感受性結 薬剤名	果に応じて狭域の	抗菌薬に変更する 投与間隔
薬剤名 A群β溶連菌の場合 (G群, C群含む) ベニシリンG (ベニシリンGカリウム [®])		投与間隔
業剤名 A群β溶連菌の場合 (G群, C群含む)	投与量(1回)	投与間隔 12時間持続静注
薬剤名 A群β溶連蘭の場合 (G群, C群含む) ペニシリンG (ペニシリンGカリウム [®]) または	投与量(1回) 1.200万単位	投与間隔 12時間持続静注 として1日2回
薬剤名 A群β溶連菌の場合 (G群, C群含む) ペニシリンG (ベニシリンGカリウム [®]) または アンピシリン (ピクシリン [®]) + クリンダマイシン (ダラシン [®] S) ビブリオ・バルニフィカス (海水との接触) の場	投与量(1回) 1.200万単位 2g	投与間隔 12時間持続静注 として1日2回 4時間ごと静注
薬剤名 A群 8 溶連菌の場合 (G群, C群含む) ペニシリンG (ペニシリンGカリウム [®]) または アンピシリン (ピクシリン [®]) + クリンダマイシン (ダラシン [®] S)	投与量(1回) 1.200万単位 2g	投与間隔 12時間持続静注 として1日2回 4時間ごと静注
A群 β 溶連菌の場合 (G群, C群含む) ベニシリンG (ベニシリンGカリウム*) または アンピシリン (ピクシリン®) + クリンダマイシン (ダラシン®S) ビブリオ・パルニフィカス (海水との接触) の場合	投与量(1回) 1.200万単位 2g 600mg	投与間隔 12時間持続静注 として1日2回 4時間ごと静注 8時間ごと静注